

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 群馬大学

1. 事業名称

日本に定住を希望する外国人住民が高齢期に向けて備える「ライフプラン」に必要な日本語教育実践プログラム

2. 事業の目的

生活者としての外国人が、日本に定住し高齢期を迎える前に必要となる日本での「ライフプラン」を、①マネープラン、②ケアプラン、③地域交流プランという3つのテーマから考え、自らの「ライフプラン」を構想し実践できる力を、日本語教育を通して養成する。

3. 事業内容の概要

「日本で高齢期を迎える前に「ライフプラン」を立てる」という概念の導入をわかりやすい日本語で行う。次に、以下の3つのテーマでプランを立て実践するのに必要な日本語を習得させ、「読み・書き・伝え」ができるようにする。具体的には、①マネープラン(暮らしを守る「保険」、老後に備える「年金」、私たちの身近な「税金」、「金融機関」の利用の仕方)、②ケアプラン(「生活習慣」を見直す、「介護保険」を知る・利用する)、③地域交流プラン(「弓道」を体験し、弓道の「ことば」と「動作」の学びを契機に、地元の弓道愛好団体と交流する。)を日本語で学び・実践する力を学習者に対して養成することで課題を解決する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 7月16日 10:00～ 12:00	2時間	群馬大学大学 会館3階 国際教育・研究 センター会議室	高坂欣一 (代理:土橋徹) 大澤孝志、桑原宣徳、 高橋清乃、大谷明、 小林修、結城恵、 牧原功、俵山雄司、 大和啓子	1. 出席者紹介 2. 運営委員会の設置及び委員長選出 3. 日本語教室の実施内容及びスケジュール 4. 意見交換	1. 運営委員の自己紹介 2. 運営委員会設置要綱を承認。委員長には、結城恵群馬大学教授を選出 3. ケアプラン・マネープラン・地域交流プランの内容及び日程案について説明し委員会で検討。
2	平成25年 9月11日 10:00～ 12:00	2時間	群馬大学大学 会館3階 国際教育・研究 センター会議室	高坂欣一 (代理:土橋徹)、 大澤孝志 (代理:松本智弘)、 桑原宣徳、小林修、 結城恵、牧原功、 俵山雄司、大和啓子	1. 日本語指導者養成講座 2. 日本語教室について 3. 日本語教室各プランの内容案について 4. 意見交換	1. 概要を説明し、日本語指導者養成講座の内容について、委員の了承を得た。 2. 概要を説明し、日本語教室の内容について、委員の了承を得た。 3. 日本語教室の構成を説明し、各プランを担当する講師から講義内容案を示した。
3	平成26年 3月7日 10:00～ 12:00	2時間	群馬大学大学 会館3階 国際教育・研究 センター会議室	高坂欣一 (代理:土井徹)、 大澤孝志 (代理:松本智弘)、 大谷明、小林修、 結城恵、牧原功	1. 日本語指導者養成講座の開催結果 2. 日本語教室の開催結果 3. 教材作成について 4. 意見交換	1. 日本語指導者養成講座について、授業内容や参加人数などを報告した。 2. 日本語教室について、授業内容や参加人数を報告した。 3. 作成した各プランの教材について報告した。 4. 成果や改善点などを話し合い協議した。

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称

あなたの「ライフプラン」をつくり・実践するための日本語教室

(2) 目的・目標

第一に、学習者が受講内容をもとに自分自身の「ライフプラン」を日本語で説明できるようになる。第二に、「ライフプラン」を実行に移すときに必要となる、日本語で書かれた各種申請書類の内容を理解し、窓口担当者ややりとりができるようになり、申請手続きができるようになる。

(3) 対象者

伊勢崎市への定住を検討している／決めた外国人住民

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 20 回)

【マネープラン】1回2時間 × 9回 = 18時間

【ケアプラン】1回2時間 × 9回 = 18時間

【地域交流プラン】1回6時間 × 2回 × (マネープラン／ケアプランの教室) = 24時間

(5) 使用した教材・リソース

- ・教材: 各プランで作成したテキスト
- ・教材: にほんご宝船(アルク出版)、日本語おしゃべりのたね(スリーエーネットワーク)
- ・用具: 高齢者体験キット「もみじ箱」(群馬県社会福祉議会貸出)
- ・用具: 車椅子
- ・用具: 福祉器具(食器類などの介護用品)

(6) 受講者の総数 27 人

(出身・国籍別内訳 ブラジル国籍6人、ペルー国籍10人、フィリピン国籍5人、ベトナム国籍6人)

(7) 日本語教室の具体的内容

【マネープラン】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 11月23日 14:00～ 16:00 *ケアプランと合同	2時間	伊勢崎市民プラザ	23人	フィリピン5人 ペルー7人 ブラジル5人 ベトナム6人	(オリエンテーション) ライフプランを考える ライフイベント表の作成	・日本語教室及び各プランの概要について説明 ・高齢期を迎えるために、ライフプランの必要性を知る ・各自のライフイベント表を作成する	須田京子 名和川淳 比嘉グロリア 横山典子 飯塚順吉 大谷明 小林修 園田基博 茂木和子 綿貫啓通	牧原功 大和啓子 結城恵 渡部真由美
2	平成25年 11月24日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	6人	ペルー3人 ブラジル3人	イベントのために 貯金する	・貯金のことが分かる ・積立預金口座を作ることができる	名和川淳 比嘉グロリア 大谷明 小林修	大和啓子
3	平成25年 12月1日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	5人	ペルー4人 ブラジル1人	給与明細を見て みよう	・給与明細から控除されているものを知る ・給与明細表の内容がわかる	名和川淳 比嘉グロリア 大谷明 小林修	渡部真由美
4	平成25年 12月8日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	5人	ペルー3人 ブラジル2人	社会保険料① (健康保険、介護保険、雇用保険)	・健康保険の概要を知る ・高額療養費の請求ができるようにする	名和川淳 比嘉グロリア 大谷明 小林修	大和啓子
5	平成25年 12月22日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	5人	ペルー3人 ブラジル2人	社会保険料② (厚生年金保険、国民年金保険)	・公的年金の仕組みを知る ・年金がもらえるようにする	桑原宣徳 須田京子 大谷明 小林修	渡部真由美
6	平成26年 1月12日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	6人	ペルー4人 ブラジル2人	資金計画を作る	・銀行で積立預金をする ・高齢期を迎える資金作りの方法を知る ・積立預金を作れる	桑原宣徳 柳瑠美 小林修	渡部真由美
7	平成26年 1月26日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	6人	ペルー4人 ブラジル2人	老後のリスクマネジメント (成年後見制度)	・成年後見制度の概要を知る ・家族が認知症になる前の準備ができる	柳瑠美 大谷明 小林修	大和啓子
8	平成26年 2月2日 14:00～ 16:00	2時間	伊勢崎市民プラザ	5人	ペルー4人 ブラジル1人	資産運用のポイント	・金融商品の仕組みを知る ・高齢期の資金運用に適した金融商品を選択できる	大谷明	大和啓子 結城恵
9	平成26年 2月23日 17:00～ 19:00 *ケアプランと合同	2時間	伊勢崎市民プラザ	8人	ペルー5人 ブラジル3人	(各プラン共通) ふり取り・まとめ	・これまでの授業の振り返り ・各プラン学習者、指導者などとの交流	桑原宣徳 名和川淳 比嘉グロリア 柳瑠美 横山典子 大谷明 小林修 園田基博 綿貫啓通	結城恵 渡部真由美

【ケアプラン】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 11月23日 14:00～ 16:00 * ケア プランと合 同	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	23人	フィリピン5人 ペ ルー7人 ブラジル5人 ベト ナム 6人	(オリエンテー ション) ライフプランを考 える ライフイベント表 の作成	・ 日本語教室及び各プランの概要 について説明 ・ 高齢期を迎えるために、ライフプラン の必要性を知る ・ 各自のライフイベント表を作成す る	須田京子 名和川淳 比嘉グロリア 横山典子 飯塚順吉	牧原功 大和啓子 結城恵 渡部真由美
2	平成25年 11月24日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	10人	ペルー 7人 ブ ラジル3人	認知症について	・ 認知症について理解する ・ 認知症のある高齢者の対応の仕 方がわかる	柳瑠美 横山典子 原彩美 茂木和子 綿貫啓通	俵山雄司
3	平成25年 12月1日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	5人	ペルー 4人 ブ ラジル1人	加齢に伴う身体 機能低下につい て	・ 高齢者への理解を深める ・ 高齢者の疑似体験(高齢者体験 キット「もみじ箱」)を使用)をし、加齢 に伴う身体機能低下について知る	原彩美 飯塚順吉 園田基博 茂木和子 綿貫啓通	結城恵
4	平成25年 12月8日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	7人	ペルー 4人 ブ ラジル3人	脳卒中について	・ 脳卒中の症状を理解する ・ 消防署へ脳卒中の症状を伝え救 急車を要請できる	桑原宣徳 横山典子 原彩美 園田基博 綿貫啓通	渡部真由美
5	平成25年 12月22日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	8人	ペルー 5人 ブ ラジル3人	特定検診につい て	・ 生活習慣病の要因について理解 する ・ 特定検診の結果がわかる	横山典子 原彩美 飯塚順吉 園田基博	俵山雄一 結城恵
6	平成26年 1月12日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	8人	ペルー 5人 ブ ラジル3人	地域包括支援セ ンターに相談す る	・ 地域包括支援センターについて理 解する ・ 地域包括支援センターに相談でき る	横山典子 飯塚順吉 綿貫啓通	俵山雄司
7	平成26年 1月26日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	9人	ペルー 6人 ブ ラジル 3人	要介護認定申請 書を作成する	・ 要介護認定申請を理解する ・ 要介護認定申請ができる	横山典子 飯塚順吉 園田基博 綿貫啓通	渡部真由美
8	平成26年 2月2日 14:00～ 16:00	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	9人	ペルー 6人 ブ ラジル 3人	介護保険サービ スを知る	・ 介護保険サービスを理解する ・ 介護サービスの種類がわかる	横山典子 園田基博 綿貫啓通	渡部真由美
9	平成26年 2月23日 17:00～ 19:00 * ケア プランと合 同	2時 間	伊勢崎市民プ ラザ	8人	ペルー 5人 ブ ラジル3人	(各プラン共通) ふり取り・まとめ	・ これまでの授業の振り返り ・ 各プラン学習者、指導者などと交 流	桑原宣徳 名和川淳 比嘉グロリア 柳瑠美 横山典子 大谷明 小林修 園田基博 綿貫啓通	結城恵 渡部真由美

【地域交流】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 11月9日 10:00～ 16:00	6時間	伊勢崎市堺文 化センター 伊勢崎市堺弓 道場	マナー プラン 5人	フィリピン1人 ペルー3人 ブラジル1人	弓道を体験する 弓道を通して、日 常生活の礼儀作 法を学ぶ	・ 弓道の所作の学習を通じて、身体 部位(名称)や礼儀作法を学び習得 する。 ・ 地域で活動する弓道関係者(伊勢 崎市境弓道クラブ)から指導を受 け、実際に弓道を体験する。 ・ 弓道関係者と弓道の指導を通じて 交流する	名和川淳 比嘉グロリア 増子浩史 松井佐一	牧原功
	平成25年 11月9日 10:00～ 16:00	6時間	伊勢崎市堺文 化センター 伊勢崎市堺弓 道場	ケア プラン 6人	フィリピン1人 ペルー3人 ブラジル2人			原彩美 小野里照代 木村あい子 中村敬一	牧原功

2	平成26年 2月23日 13:00～ 17:00	4時間	伊勢崎市民プ ラザ	マネー プラン 7人	ペルー 4人 プ ラジル3人	伝統文化を体験 する	・日本の伝統文化である茶道、書道 を体験する ・書道や茶道の指導を通じて日本 文化に触れ、交流のきっかけとする	桑原宣徳 名和川淳 比嘉グロリア 大谷明 小林修	結城恵 渡部真由美
	平成26年 2月23日 13:00～ 17:00	4時間	伊勢崎市民プ ラザ	ケアブ ラン9 人	ペルー6人 プラ ジル3人			柳瑠美 横山典子 園田基博 綿貫啓通	結城恵 渡部真由美
3	平成26年 3月2日 13:00～ 18:30 *1	4時間	群馬大学荒牧 キャンパス	各プラン 合同 11人	ペルー7人 プラ ジル4人	地域のイベント (シンポジウム) に参加する	・群馬大学で開催されたシンポジウ ムに参加し、地域の多文化共生の 取組について話を聞く ・シンポジウムに参加した地域住民 や関係者、大学関係者と交流する	横山典子 飯塚順吉	牧原功

*1(13:00～14:00事前指導、14:30～15:30シンポジウム参加、16:30～17:30ふり回り、17:30～18:30交流・懇親会)

(8) 受講者の募集方法

日本語教室開催のチラシ(添付のチラシ)を作成し、以下の機関や団体に設置／配布を依頼した。

- ・伊勢崎市役所外国人相談窓口及び、伊勢崎市国際課にチラシを設置
- ・市内の外国人向け店舗に案内チラシを設置
- ・市内公立小学校(外国人集住地域)の外国人保護者にチラシを配布
- ・市内日本語教室などにチラシを配布

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

○ 12月22日マネープラン授業「困ったときのためのお金(年金)」

日本語教室報告書			
授業日	2013年12月22日	教室名	マネープラン
授業テーマ	第6回 困ったときのためのお金(年金)		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年金のことが分かる。 ・年金窓口で相談することができる。 		
指導項目と内容	<p>【授業の形態】 スクリーンにテキストを写し、講師が進行をつとめ、ところどころにペアでの確認作業を入れた。</p> <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定年とお金(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・「定年」という用語について説明。また、母国の定年年齢や日本の定年年齢を比較する。 ・定年後に生活に必要なお金について考える。 * この項目については、全体で進める。 * 導入については、年金手帳や年金機構の写真を見せ導入を行った。 2. 年金(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・「年金」という用語について説明。 * 年金についての導入。 3. 年金制度(20分) <ul style="list-style-type: none"> ・「年金制度」についての説明。また、日本の年金制度と母国の年金制度について比較しながら学ぶ。 ・日本の年金制度にどのように加入するのか。また、年払い・半年払いにすると、割引制度があることも説明。 4. 年金クイズ(20分) <ul style="list-style-type: none"> ・日本の年金制度や仕組みについて、クイズ形式で学ぶ。 5. 年金について相談する(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・市役所で年金の相談ができることを知る。 ・会話練習(ロールプレイ)で、年金について理解する。 6. ことば <ul style="list-style-type: none"> ・年金についての用語を対訳表を用いて学ぶ。 7. 資料 <ul style="list-style-type: none"> ・年金についてスペイン語、ポルトガル語で書かれた資料を提示し、さらなる理解を促す。 8. ふりかえり(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・今日の日本語についての感想(おもしろかったこと、難しかったこと)など、発表する。 		
備考 講師感想など	<ul style="list-style-type: none"> ・年金についての大まかな知識確認、知識を問うクイズ、年金支払年数・受給年齢の知識を用いたロールプレイという流れがスムーズで、知識を少しずつ深められた。 ・学習者の中には、日本語力が高く、両親が年金を受給する年齢ということもあり、年金についての予備知識があるものがいた。 ・学習者の一部に日本語の語彙力が低く、自由に発話するのは難しく、さらに母国での年金知識がなく、通訳してもらっても、具体的なイメージがわからないものもいた。 		



○ 12月1日ケアプラン授業(「おじいさん、おばあさんの体験をしよう」)

日本語教室報告書			
授業日	2013年12月1日	教室名	ケアプラン
授業テーマ	第4回 おじいさん、おばあさんの体験をしよう		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢体験キットを使い、高齢者の体験をする ・ 高齢体験を通して、介護をする際に気をつけることを知る 		
指導項目と内容	<p>【授業の形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのグループに分かれ、2～3名のボランティア講師がつき、指導にあたった。 ・ 各グループの指導にあったボランティア講師の中には、福祉関係者が1名以上入るように調整をした。 <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(5分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢期を迎えると、歩行が困難になったり、目が見えにくくなったり、生活に支障が出てくることを説明。 ・ 今回の授業では、そうした高齢期を迎えることで出てくる障害について体験をすることを説明。 2. 体験(50分) <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに、高齢体験キットを使用する。 ・ 高齢体験キット(足首、手首、膝固定、肘固定、白内障体験グラス、ヘッドホン)を装着し、以下の場所を介助者と共に歩く(高齢体験者、介助者とも、学習者が交代で体験する)。 * 平らな道を歩く(部屋の中)→スロープを歩く→段差を越える→階段を上ったり、下りたりする→トイレに座る * 車椅子を使う(車椅子に乗車するもの、介助者とも、学習者が交代で体験する) 3. ふりかえり(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の教室で体験した高齢体験(高齢体験キット、車椅子、アイマスク)について、感想をグループごとで話し合う。 		
備考 講師感想など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の中には、親が高齢期を迎えており、日常生活の中で介護が必要な学習者もいた。その学習者の話では、高齢者の動きが遅いことを「なぜできないだろう」と思い、「早くして」とよく言っていたという。しかし、今回の体験を通して、高齢者の気持ちがわかり、これからは優しく接していきたいと話していた。 ・ 学習者の母国では、高齢体験キットなど高齢期を体験できるものがなかった。日本は、高齢者が多いので、こうした体験が用意されているのだろうと思うと、話していた。 ・ 学習者の感想で、少しの段差でも車椅子が通れないことに驚いた。日本の道路や建物は段差がかなり少ないが、それでも各所に通れないところがあったことがわかったと、感想を話していた。 ・ 日本のお年寄り、元気だと思う。高齢者でも、自転車に乗ったり車に乗ったりしていることに、いつも驚いていた。しかし、高齢期を迎えると、体が動かなくなるとそうしたことができなくなるのがわかったと、学習者が話していた。 		



○ 11月9日地域交流プラン(「弓道を体験する」)

日本語教室報告書			
授業日	2013年11月9日	教室名	ケアプラン
授業テーマ	弓道を体験する		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弓道体験を通して身体部位や動作の日本語を学ぶ ・ 弓道を通して地域住民と交流する 		
指導項目と内容	<p>(午前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弓道の動作や所作を通して、身体部位や動作の用語を学ぶ。 <p>(午後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 午前中の弓道の用語や所作の学習を踏まえて、実際に弓道を体験する。弓道体験にあたっては、境弓道連盟(伊勢崎市)の会員の方から指導を受ける。 <p>【授業の形態】</p> <p>(午前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5テーブルに分かれ、ボランティア講師2～3名が指導した。 ・ 国籍別(使用言語別)に分かれグループ(テーブル)を形成。 ・ (日本語のレベル)全体的に学習者の日本語レベルは、中級から上級レベルの者が多かった。数名日本語レベルが初級の者がいたが、バイリンガルスタッフや周囲の学習者の手助けを受けて、授業内容を理解していた。 <p>(午後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弓道指導員5～6名の指導のもとに、4グループに分かれて、実際に弓道の所作や弓を射った。 <p>【授業の内容】</p> <p>○ 講師と弓道の知識を有するボランティア講師が、教室の進行を主導し、講師に従い各テーブルについてボランティア講師がワークや話し合いを進行・指導した。</p> <p>(午前)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介をする <ul style="list-style-type: none"> ・ タスク1:15秒自己紹介 ・ 挨拶をする時にどのようなことに気をつけるのか ・ 話している時の目線や話し声など ・ 午後の弓道協会の人たちと自己紹介する時のために練習 2. 弓道の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体をあらわす言葉、弓道道具、弓道場の言葉、動きを表す言葉 3. 礼儀作法について <p>(午後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弓道指導員の演武(入場から弓を射つ) ・ 4グループに分かれて、弓道指導員の指導のもと弓を射つ。 ・ 弓道指導員と学習者の交流。 		
備考 講師感想など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者の中には、親が高齢期を迎えており、日常生活の中で介護が必要な学習者もいた。その学習者の話では、高齢者の動きが遅いことを「なぜできないだろう」と思い、「早くして」とよく言っていたという。しかし、今回の体験を通して、高齢者の気持ちがわかり、これからは優しく接していきたいと話していた。 ・ 学習者の母国では、高齢体験キットなど高齢期を体験できるものがなかった。日本は、高齢者が多いので、こうした体験が用意されているのだらうと思うと、話していた。 ・ 学習者の感想で、少しの段差でも車椅子が通れないことに驚いた。日本の道路や建物は段差がかなり少ないが、それでも各所に通れないところがあったことがわかったと、感想を話していた。 ・ 日本のお年寄りには、元気だと思う。高齢者でも、自転車に乗ったり車に乗ったりしていることに、いつも驚いていた。しかし、高齢期を迎えると、体が動かなくなるとそうしたことができなくなるのがわかったと、学習者が話していた。 		



(10) 目標の達成状況・成果

日本で高齢期を迎えるために必要な知識や情報を、各プランの授業で専門家を交えながら学習者に伝えることができた。学習者の中には、授業中やその前後に質問をするものも多く見られた。また学習者の中には、既に介護が必要な家族や、自らが脳卒中を経験している者もあり、さらに授業に対する関心を高めていた。マネープラン、ケアプランとも、この教室の参加が、今後の日本定住に向けて自ら情報収集や学習、知識習得のきっかけになったと考えられる。

(11) 改善点について

専門用語や制度など、やや難しい日本語を使用しなければいけない場面があった。また日本独自の制度(例えば、介護保険制度や地域包括支援制度、日本の年金制度など)は、概念自体から学習者に伝えなければならず、説明に苦慮した。そうした際には、既に制度を利用したことがある学習者やバイリンガルスタッフが補助に入るなど対応をした。この点については、いかにわかりやすく、やさしい日本語で伝えるかが課題であった。

また、今回の日本語教室では体験・活動型中心の教室であったため、専門的なことを伝え活動しながら、日本語能力の向上にも務める必要があり、そのバランスに工夫が必要だった。この点に関しては、毎回の教室で、何をどこまで伝えるかという点を明らかにすることである程度、改善すると考えられる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」開催のための日本語指導者養成講座

(2) 目的・目標

「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」を実施するのに必要な教育内容と方法を理解し、学習者の日本語能力に応じた指導ができる人材の養成・研修を行う。

(3) 対象者

地域の日本語教育に継続的に活動进行する意欲のある人材

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 5 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・担当講師作成のプリント
- ・マネープラン、ケアプラン担当の専門家が準備した資料

(6) 受講者の総数 17 人

(出身・国籍別内訳 日本人 14人、ブラジル人 1人、ペルー人 2人)

(7) 養成・研修の具体的内容

* 各日とも、10:00～12:00、13:00～15:00、15:15～17:15の6時間で養成講座を開講

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 9月15日	6時間	群馬大学荒牧 キャンパス	10人	日本7人 ペルー1人 パラグアイ 1人 ブラジル1人	ライフプランの説明及び地域状況について 各プランについて	・日本語教室の趣旨及びライブプランとは何か説明 ・日本語教室で実施する各プランについて説明及び講義	俵山雄司	
2	平成25年 9月23日	6時間	群馬大学荒牧 キャンパス	11人	日本 8人 ペルー 1人 パラグアイ 1人 ブラジル1人	モデル教材『バスに乗ってみる』の体験 外国人にとって「やさしい日本語」での話し方	・モデル教材(『バスに乗ってみる』)の内容解説と体験 ・外国人にわかりやすい「やさしい日本語」の使い方についての講義	俵山雄司	
3	平成25年 10月5日	6時間	群馬大学荒牧 キャンパス	9人	日本 8人 ペルー 1人	マネープランの教材作成体験	・マネープランについての基礎知識の講義 ・グループワークによる教材の作成と検討(「行動、体験中心の活動」教材) ・実際にテキストを作成することで、活動のポイントを理解する	牧原功 大和啓子	

4	平成25年 10月20日	6時間	群馬大学荒牧 キャンパス	5人	日本 5人	ケアプランの教 材作成体験	・ ケアプランについての基礎知識の 講義 ・ グループワークによる教材の作成 と検討(「行動、体験中心の活動」教 材) ・ 実際にテキストを作成することで、 活動のポイントを理解する	俵山雄司	
5	平成25年 10月26日	6時間	群馬大学荒牧 キャンパス	7人	日本 6人 ベルー 1人	教材の使い方 について解説と実 習	・ 対話型の日本語活動のための市 販教材について知る。 ・ 各プランを「学ぶ日本語教室のた めの「行動、体験中心の活動」教材 の進め方を知り、リハーサルをする	俵山雄司 大和啓子	

(8) 受講者の募集方法

日本語指導者養成講座の開催のチラシを作成し、以下の機関や団体に設置／配布を依頼した。

- ・ 県内の国際交流協会へチラシ送付
- ・ 県内日本語教室へのチラシ送付
- ・ 伊勢崎市役所でチラシ設置

* 群馬大学HPに掲載

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

○ 9月15日 マネープラン、ケアプラン担当の専門家が、日本語教室で取り上げる各専門知識や用語について、指導のポイントを整理解説した。また、行動、体験中心の教材を作成するために、実際に高齢者体験キット(もみじ箱)を活用し、高齢者体験をした(高齢者体験は、日本語教室でも外国人学者に体験してもらった)。



○ 10月26日 作成した各プランの教材を実際に使用してみるなど、模擬授業を行った。その中で、指導のポイントや留意する点などを学んだ。



(10) 目標の達成状況・成果

毎回講義終了後、振り返りシートを受講者に提出してもらった。その中では、マネーやケアの専門用語をわかりやすく伝えるためには、まずは、指導者がしっかり内容を理解しなければいけないと回答する受講者がいた。毎回の講座では、日本語教育の専門家の他に、各分野専門家も参加しており、用語や制度についてわかりやすく解説したことにより、受講者は専門的知識を身につけることができた。また、専門的知識の他に、日本語指導力として外国人学習者に対してやさしい日本語で伝える方法や注意点を学べた。

(11) 改善点について

受講者の多くは、日本語指導の経験がないものが多かったため、やさしい日本語で外国人学習者に伝えることに慣れていなかった。特に、マネーやケアについて専門用語を多用することが予想されたことから、できる限りやさしい日本語で分かりやすく伝える練習を学習者同士のグループワーク内で取り入れ練習した。
また、マネー、ケアの専門的なことについて、どこまで指導者として理解してもらう必要があるのか、その範囲について明確に線引きする必要があった(今回の日本語教室では、専門家が毎回参加しており、わかりやすく説明してくれた)。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」のための学習教材の作成

(2) 対象

日本に定住を希望あるいは決定した者で高齢期に向けて備える「ライフプラン」に高い関心をもつ外国人住民。特に、情報入手に困難を感じ、日本語教育を受けることを希望する者。

(3) 目的・目標

「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」を実施するのに必要な学習教材を作成する。

(4) 構成・総ページ数（217ページ）

「『生活者としての外国人』」に対する日本語教育における日本語能力評価について」に基づき、学習ポートフォリオを作成し、学習者ひとりひとりの日本語学習の軌跡と能力が、学習者にとっても目で見てわかるような副教材も作成する。

「Ⅰ 健康・安全に暮らす」(03)健康に気を付ける、「Ⅲ 消費活動を行う」(06)お金を管理する、「Ⅶ 人とかかかわる」(31)人と付き合う、「Ⅷ 社会の一員となる」15地域・社会のルール・マナーを守る、16地域社会に参加する、「Ⅹ 情報を収集・発信する」

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 11月5日 18:00～ 20:00	2時間	群馬大学 荒牧キャンパス 牧原研究室	牧原功 小林修	(地位交流プラン) ・弓道を体験するのテキスト作成について検討	・テキストに盛り込む範囲内容の検討 ・テキスト内の練習問題の作成・検討
2	平成25年 11月8日 13:30～ 14:30	1時間	群馬大学 荒牧キャンパス 牧原研究室	牧原功 小林修	(地位交流プラン) ・弓道を体験するのテキスト作成・完成	・弓道を体験するのテキスト内容のチェックと修正
3	平成25年 11月14日 19:00～ 21:00	2時間	群馬大学 桐生キャンパス 大和研究室	大和啓子 渡部真由美 大谷明	(マネープラン) ・第1～5回のテキストの検討 ・テキスト範囲の検討	・各回のテキスト内容について検討 ・テーマごとに、何をどこまでを範囲とするかについて議論・検討。
4	平成25年 11月27日 19:00～ 21:00	2時間	群馬大学 荒牧キャンパス 大和研究室	大和啓子 大谷明	(マネープラン) ・第6～9回のテキストの検討 ・テキスト範囲の検討	・各回のテキスト内容について検討 ・テーマごとに、何をどこまでを範囲とするかについて議論・検討。 ・クイズなどテキスト内で盛り込む教材を検討
5	平成26年 1月15日 16:00～ 18:00	2時間	群馬大学 荒牧キャンパス 牧原研究室	牧原功 小林修	(地域交流プラン) ・テキストの検討と作成	・2/15実施予定の地域交流プランテキストの内容検討と作成
6	平成26年 1月17日 13:30～ 15:30	2時間	群馬大学 荒牧キャンパス 牧原研究室	牧原功 小林修	(地域交流プラン) ・テキストの作成	・2/15実施予定の地域交流プランテキストの内容検討と作成と、使い方の検討

(6) 使い方

各プランごとに作成したテキストでは、学習者の教材として活用した。また、毎回の授業ごとにテキストを作成しており、プランごとに今日は何を勉強するのか明確になっており、学習者が分かりやすいものになっている。

テキストを使った勉強だけでなく、福祉器具を使った研修や体操なども実施した。そうした体験実践の学習前後には、テキスト内で予備知識や振り返りなどができる教材になっている。

(7) 具体的な活用例

テキストでは、各専門用語や制度がわかりやすく解説しているとともに、クイズ形式などの練習問題が多く用いられている。また、体験実践型のための教材であることから、高齢者体験や認知症自己チェックなどの体験も取り入れたものになっている。講義形式の側面も持ちながら、体験実践を通した活動もある教材となっている。そのため、学習者同士や講師、補助者などの交流がより盛んになった。

(8) 成果物の添付

別添

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

生活者としての外国人が、日本に定住し高齢期を迎える前に必要となる日本での「ライフプラン」を、①マネープラン、②ケアプラン、③地域交流プランという3つのテーマから考え、自らの「ライフプラン」を構想し実践できる力を、日本語教育を通して養成する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

学習者それぞれがある学習者は、この授業(ケアプラン)を通して自分が年を取るということはどういうことなのか、どのような状態になるのか、想像することができたと話した。そのほか学習者も、同様の感想を話す者もあり、その意味からも、日本語教室を通して高齢期を迎える前に必要なある程度の知識を身につけられたと考えている。

マネーやケアなどの専門用語や制度については、学習者にとっては難しいものであった。しかしながら、やさしい日本語を用いて、また体験や実践を交えながら進めていったことにより、興味を惹きつけることができた。これらにより、各自が日本で迎える高齢期について考えるきっかけになった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ・地域で活用する際には(特に難しい用語や制度の説明時には)、できるだけマネーやケアの専門家と連携しながらカリキュラムを実施していくと効率が良い。
- ・車椅子や高齢体験キットなど福祉器具を使った体験実践活動の場合は、教室内だけでなく階段やエレベーター、野外のスロープなどで使用することで、より効果的に高齢者の体験をすることができる。
- ・車椅子などの福祉器具については、地域の社会福祉議会などの福祉関連組織などと相談すると貸出などの対応をしてくれる場合があるので相談するとよい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

運営員会にも入っていただいた地域の日本語教室代表者やその教室で指導している先生方も、この教室の見学や指導にあたってください。また、福祉器具を貸出していただいた群馬県社会福祉協議会も、高齢者体験の回に見学・参加していただいた。こうした方々に対しては、地域で暮らす外国人が高齢期に向けて備えることの重要性を理解していただき、今後も協力をしてくださることになった。

(5) 改善点、今後の課題について

- ・マネープラン、ケアプランとも、学習者にどの範囲まで伝え理解してもらいたいかという点について検証が必要であった。この検証については、次回の教室までに精査が必要である。
- ・マネーやケアの専門的なことも教えつつ、日本語教育になるようにするためには、さらにテキストや事業の進めた方に工夫が必要であった(体験実践型であるがため、学習前と学習後の何がどう分かったかについてその変化を見極めることが難しかった)。

(6) その他参考資料

本事業に関する報道記事は以下のとおり。

	日 付	掲載紙(誌)	項目
1	2013/9/17	上毛新聞	言葉で外国人支える 群大 日本語講師を育成
2	2013/10/4	朝日新聞	高齢期に備えた日本語教室 多文化共生へ準備
3	2013/11/9	境弓道クラブホームページ	日本語教室の皆さんへの弓道体験
4	2013/11/10	ラジオ放送 いせさきFM	日本語教室
5	2013/12/14	読売新聞	創る 隣の外国人8 定住の安心 学んで築く
6	2013/12/28	読売新聞	創る 隣の外国人16 外国人とどう向き合う